

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【地震一口メモ】

長期評価による地震発生確率値の更新について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

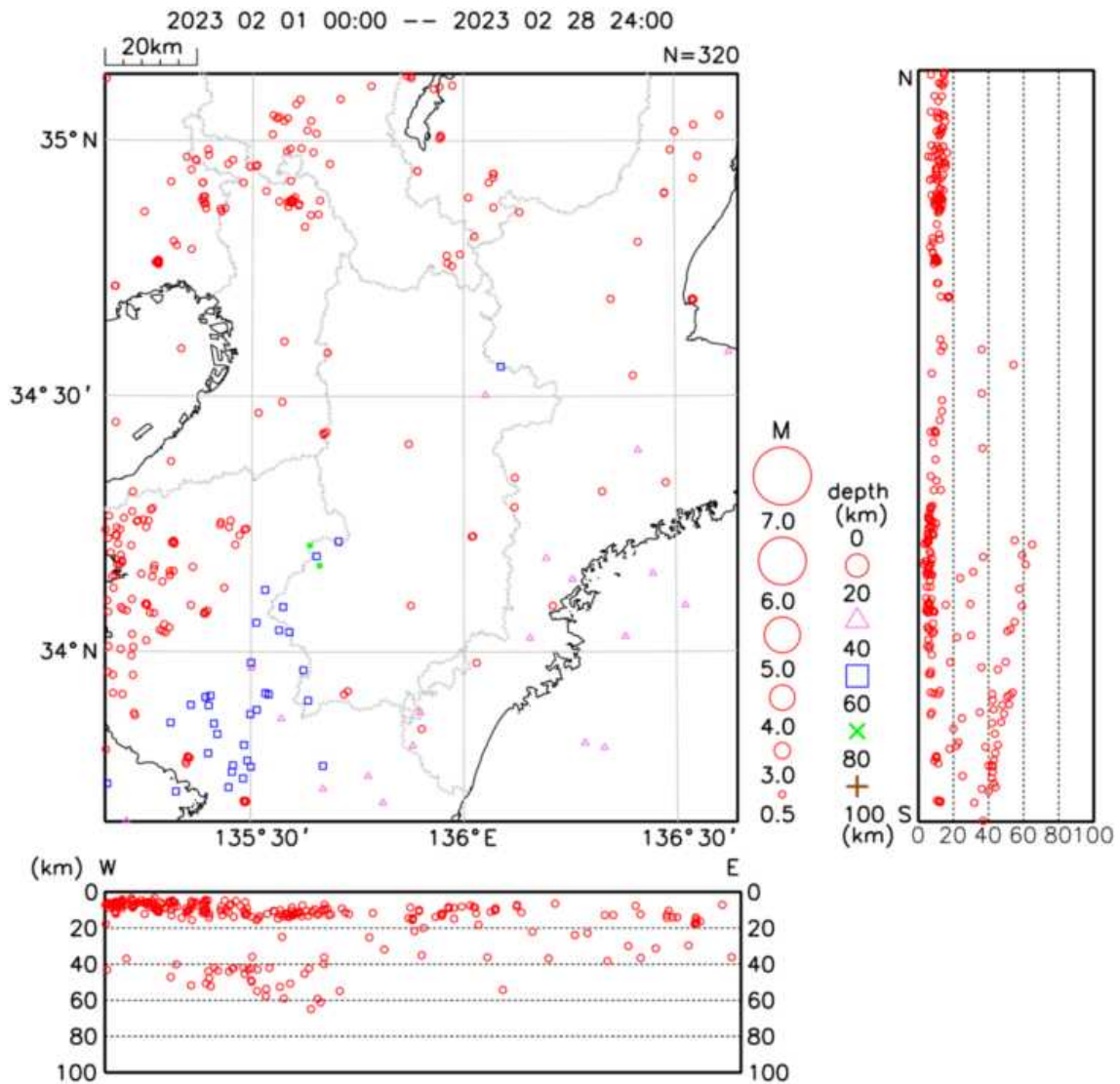
奈良地方気象台

2023年2月

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



【奈良県地震概況】

奈良県内で2月に震度1以上を観測した地震はありませんでした。

【地震一口メモ】

～長期評価による地震発生確率値の更新について～

政府の地震調査研究推進本部は主要な活断層や海溝型地震の活動間隔、次の地震の発生可能性（場所、規模及び発生確率）等を評価し、随時公表しています。令和5年1月1日を基準日として再計算が行われ公表されましたので、以下のとおり奈良県に關係の深い領域を抜粋して紹介します。

これまでの再計算でも同様ですが、今回の再計算では時間経過により南海トラフ地震の長期評価の「最新活動時期」が昨年の「76.0年前」から「77.0年前」に、「地震後経過率」が昨年の0.86から0.87に上がった変更がありました（赤字部分）。なお、下に記載しておりませんが、これに伴い20年以内発生確率が「50-60%」から「60%程度」に上がった変更があります。全体として大きな変更はありませんが、地震に対する普段からの備えをお願いします。

主要活断層帯の長期評価の概要（算定基準日 令和5年（2023年）1月1日）

断層帯名	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	我が国の主な活断層帯における相対的評価(ランク) ^(注1)	地震発生確率(30年以内)	地震後経過率	平均活動間隔
					最新活動時期
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	S*	ほぼ0～5%	0.2-2.2	約5,000年 約11,000年前以後、 約1,200年前以前
中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間)	6.8程度	Z	ほぼ0%	0.2-0.3	約6,000-7,600年 1世紀以後、3世紀以前
中央構造線断層帯(五条谷区間)	7.3程度	X	不明	不明	不明 約2,200年前以後、 7世紀以前

南海トラフ地震の長期評価の概要（算定基準日 令和5年（2023年）1月1日）

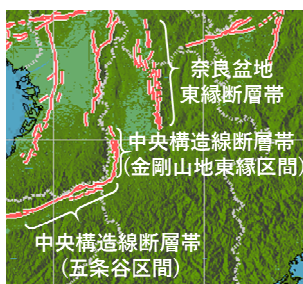
領域	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	我が国の海溝型地震の相対的評価(ランク) ^(注1)	地震発生確率(30年以内)	地震後経過率	平均発生間隔
					最新発生時期
南海トラフ	8～9クラス	Ⅲ*	70～80%	0.87	次回までの標準的な値 ^(注2) 88.2年 77.0年前

注1 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記している。海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」と表記している。地震後経過率が0.7以上については、ランクに*を付記している。

注2 過去に起きた大地震の震源域の広がりには多様性があり、現在のところ、これらの複雑な発生過程を説明するモデルは確立されていないため、平成25年5月に公表した長期評価（第二版）では、前回の長期評価を踏襲し時間予測モデルを採用した。前の地震から次の地震までの標準的な発生間隔は、時間予測モデルから推定された88.2年を用いた。また、地震の発生間隔の確率分布はBPT（Brownian Passage Time）分布に従うと仮定して計算を行った。

参考：地震調査研究推進本部（令和5年1月13日公表）

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_23jan_kakuritsu_index/



参考：上表に紹介した主要活断層図

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去数年間程度分掲載しています。
URL：<https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

